

特 61

404

東 洋 書 局

刑 罰 法 圖 解

釐

法 解 釋

完

島 田 亥 十 郎 解 釋

千 鍾 房 發 兌





頭 刑 法 解 釋 目 錄

第一編 總 則

第一章 法 例 一 條 以 下

第二章 刑 例 六 條 以 下

第一節 刑 名 六 條 以 下

第二節 主 刑 處 分 十 二 條 以 下

第三節 附 加 刑 處 分 三 十 一 條 以 下

第四節 徵 償 處 分 四 十 五 條 以 下

第五節 刑 期 計 算 四 十 九 條 以 下

第六節 假 出 獄 五 十 三 條 以 下

第七節 期 滿 免 除 五 十 八 條 以 下



- 第八節 復權 六十三條以下
- 第三章 加減例 六十六條以下
- 第四章 不論罪及ヒ減輕 七十五條以下
- 第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕 七十五條以下
- 第二節 自首減輕 八十五條以下
- 第三節 酌量減輕 八十九條以下
- 第五章 再犯加重 九十一條以下
- 第六章 加減順序 九十九條以下
- 第七章 數罪俱發 百條以下
- 第八章 數人共犯 百四條以下
- 第一節 正犯 百四條以下

- 第二節 從犯 百九條以下
- 第九章 未遂犯罪 百十一條以下
- 第十章 親屬例 百十四條以下
- 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪 百十六條以下
- 第一章 皇室ニ對スル罪 百十六條以下
- 第二章 國事ニ關スル罪 百二十一條以下
- 第一節 內亂ニ關スル罪 百二十一條以下
- 第二節 外患ニ關スル罪 百二十九條以下
- 第三章 靜謐ヲ害スル罪 百三十六條以下
- 第一節 兇徒聚衆ノ罪 百三十六條以下
- 第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪 百卅九條以下



- 第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪 百四十二條以下
- 第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪 百五十四條以下
- 第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪 百五十七條以下
- 第六節 往來通信ヲ妨害スル罪 百六十二條以下
- 第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪 百七十一條以下
- 第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪 百七十四條以下
- 第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪 百七十七條以下
- 第四章 一般ノ信用ヲ害スル罪 百八十二條以下
- 第一節 貨幣ヲ偽造スル罪 百八十二條以下

- 第二節 官印ヲ偽造スル罪 百九十四條以下
- 第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪 二百二條以下
- 第四節 私印私書ヲ偽造スル罪 二百八條以下
- 第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪 二百十三條以下
- 第六節 偽證ノ罪 二百十八條以下
- 第七節 度量衡ヲ偽造スル罪 二百廿七條以下
- 第八節 身分ヲ詐稱スル罪 二百三十一條以下
- 第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪 二百三十二條以下
- 第五章 一般ノ健康ヲ害スル罪 二百三十七條以下
- 第一節 阿片烟ニ關スル罪 二百三十七條以下



- 第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪 二百四十三條以下
- 第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪 二百四十六條以下
- 第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪 二百五十條以下
- 第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪 二百五十三條以下
- 第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪 二百五十六條以下
- 第六章 風俗ヲ害スル罪 二百五十八條以下
- 第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪 二百六十四條以下
- 第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪 二百六十七條以下

- 第九章 官吏瀆職ノ罪 二百七十二條以下
- 第一節 官吏公益ヲ害スル罪 二百七十三條以下
- 第二節 官吏人民ニ對スル罪 二百七十六條以下
- 第三節 官吏財産ニ對スル罪 二百八十九條以下
- 第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪 二百九十二條以下
- 第一章 身體ニ對スル罪 二百九十二條以下
- 第一節 謀殺故殺ノ罪 二百九十二條以下
- 第二節 毆打創傷ノ罪 二百九十九條以下
- 第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪 二百九十九條以下
- 第四節 過失殺傷ノ罪 三百十七條以下
- 第五節 自殺ニ關スル罪 三百二十條以下



- 第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪 三百廿二條以下
- 第七節 脅迫ノ罪 三百廿六條以下
- 第八節 墮胎ノ罪 三百三十條以下
- 第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪 三百卅六條以下
- 第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪 三百四十一條以下
- 第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪 三百四十六條以下
- 第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪 三百五十五條以下
- 第十三節 祖父母父母ニ對スル罪 三百六十二條以下
- 第二章 財産ニ對スル罪 三百六十六條以下
- 第一節 竊盜ノ罪 三百六十六條以下
- 第二節 強盜ノ罪 三百七十八條以下

- 第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪 三百八十五條以下
- 第四節 家資分散ニ關スル罪 三百八十八條以下
- 第五節 詐欺取財及ヒ受寄財物ニ關スル罪 三百九十條以下
- 第六節 贓物ニ關スル罪 三百九十九條以下
- 第七節 放火失火ノ罪 四百二條以下
- 第八節 決水ノ罪 四百十一條以下
- 第九節 船舶ヲ覆没スル罪 四百十五條以下
- 第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪 四百十七條以下
- 第四編 違警罪 四百廿五條 一圓以上一圓九十五錢以下



四百廿六條 五十錢以上一圓五十錢以下  
 四百廿七條 二十錢以上一圓廿五錢以下  
 四百廿八條 十錢以上一圓以下  
 四百廿九條 五錢以上五十錢以下

○刑法トハ犯人ヲ罰ス

ヘキ刑ノ種類ヲ掲ケ  
 タルモノニシテ社會  
 民庶ノ安寧ヲ害シ公  
 益ヲ損傷スル如キ惡  
 入アルキハ是ヲ罰シ  
 一ハ社會ノ安寧ヲ保  
 持シ一ハ犯人ヲ懲戒  
 シテ改良セシムルノ  
 目的トス  
 ○此刑法ノミナラズ總  
 テ法律規則ニ於テ罰  
 スヘキ罪ハ皆此三種  
 ニ入ラサルハナシ

○特別ノ法律一般ノ法

頭 刑法解釋

島田亥十郎 解

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ

罪別テ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何



律ヲ問ハス總テノ法律規則ニ明文ナキノ所爲ハ罪トナラス何等ノ所爲トアルハミヌル害トナルヘキ所爲ナリトモ法律ニ罰スルノ明文ナキハ罰スルヲ得サルナリ

○頒布トハ御布告發令アツテ實際施行ヲ爲ス時ヲ云

等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關ス

比照シトハ新法ト舊法ト照シ合ハスルヲ云

○海陸軍ニ關スル律ト

ハ軍律ヲ以テ罰スヘキモノヲ云

○他ノ法律規則トハ例セハ鳥獸獵規則出版條例新聞條例郵便規則其他一般ノ諸規則ヲ云ナリ

○別ニ總則ヲ掲ケルトハ例セハ此刑法外ノ法令規則ニ於テ何々ヲ犯スモノハ直ニ罰金ヲ納メシム又何々ヲ犯スモノハ自宅ニ於テ禁錮セシム等ノ如キ別段ニ總則ヲ掲ケルモノハ其法ニ從フヲ云フ

○主刑トハ常事犯ニ於

ル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

第二章 刑例  
第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト



テハ死刑徒刑懲役禁錮罰金又國事犯ニ於テハ死刑流刑禁獄輕禁錮ヲ云フ  
 附加刑トハ主刑ニ附加スル刑ニシテ剝奪公權停止公權監視罰金沒收等ヲ云フ  
 宣告トハ罪ノ申渡ヲ云フ  
 ○死刑ハ絞首シテ生命ヲ絶ツモノナリ  
 ○無期徒刑ハ期限ナク島地へ送ラレ使役セラル  
 ○有期徒刑ハ十二年以上十六年以下ノ時間島地へ送ラレ使役セラル

爲ス  
 主刑ハ之ヲ宣告ス  
 附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム  
 第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス  
 一 死刑  
 二 無期徒刑  
 三 有期徒刑

○無期徒刑ハ期限ナク島地ニ送ラレ使役サル  
 ○有期ノ流刑ハ十二年以上十六年以下島地へ送ラレ使役サル  
 ○懲役ハ内地ノ懲役場ニテ使役セラル其期限ハ重キハ九年以上十一年以下輕キハ六年以上八年以下トス  
 ○禁獄ハ内地ノ獄ニ幽閉サルナリ其期限ハ重キハ九年以上十一年以下輕キハ六年以上八年以下トス

四 無期徒刑  
 五 有期徒刑  
 六 重懲役  
 七 輕懲役  
 八 重禁獄  
 九 輕禁獄  
 第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス



○禁錮ハ内地ノ禁錮場  
 へ入レ重キハ使役サ  
 レ輕キハ使役サル、  
 共ニ十日以上五年  
 以下トス  
 ○罰金ハ二圓以上十  
 何圓以下ノ制限ナシ  
 其言渡チ受タル日ヨ  
 リ一月以内ニ納完ス  
 ルヲ要ス

- 一 重禁錮
- 二 輕禁錮
- 三 罰金
- 第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス
- 一 拘留
- 二 科料
- 第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス
- 一 剝奪公權

○スルノ期限ナシ  
 ○停止公權ハ期限ヲ定  
 メテ公權ヲ剝奪セラ  
 ル  
 ○禁治産トハ己レノ財  
 産ヲ治ムル權ヲ止ム  
 私權是ナリ  
 ○監視ハ刑期滿限ノ後  
 其住居ヲ定メ常ニ監  
 視セラル、チ云  
 ○罰金ハ主刑ト附加刑  
 トニアリ  
 ○沒收ハ其物件社會ニ  
 アツテ危險トスルモ  
 ノヲ取揚ルナリ  
 ○執行トハ例へハ使役  
 ハ懲役場ニ送り役ニ  
 ツカシムルチ云  
 ○檢束スル方法トハ連  
 鎖ヲ用ヒ又ハ定役時  
 間等ノ規則ヲ云

- 二 停止公權
- 三 禁治産
- 四 監視
- 五 罰金
- 六 沒收
- 第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム



○規則ニ定ムル所トハ別段ニ規則ヲ設ケラレ是ヲ定ムルナリ  
 ○官吏臨檢トハ其掛リノ役人其場所ニ臨ミ立會フヲ云  
 ○死刑ハ裁判確定ノ上檢察官ヨリ司法卿ヘ申立司法卿ノ命令アリシヨリ三日内ニ執行スルモノトス  
 ○大祀トハ神武天皇祭等ノ類令節トハ紀元節天長節ヲ云國祭日トハ春秋季祭等ノ類ニシテ一般ノ人民祝賀ノ日ヲ云  
 ○執行ヲ止メトハ死刑

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ  
 第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス  
 第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス  
 第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタ

ノ言渡チ受ケ絞首チ行フ是ナリ其チ行フヲ止ムルチ執行ヲ止ムルト云ナリ  
 ○分娩トハ其婦女出産チシタルヲ云フ  
 ○遺骸トハ刑ニ行フタル跡ノ死體ヲ云  
 ○親族トハ父母兄弟姉妹叔伯父姑舅婦從兄弟姉妹等ヲ云フ  
 ○舊故トハ舊ク交ル所ノ友人ヲ云フ  
 ○式トハ禮式ヲ用フルヲ云  
 ○發遣トハ島ヘ送り遣ハスヲ云  
 定役トハ規則ニ定ムル所ノ使役法ニ從テ日々使役サル、ヲ云

ル婦女懐胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス  
 第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス  
 第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス有期徒刑ハ十二年以上十五年



○婦女ハ其生弱キヲ以テ法律ハ男子ト同視セズ定役モ又自ツカラ寛ナリ

○體力トハ其老體ノ力相應ノ定役ニ服スヲ云フ

○獄ニ幽閉スルトハ其島ニアル獄ニ繫キ置クヲ云フ

以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ四六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス  
有期流刑ハ十二年以上十五年

以下ト爲ス

○經過トハ時間ノ過キタルヲ云フ  
○地ヲ限リトハ島ノ内ノ地ヲ定メテ其所ニ居住セシムルヲナリ

○行政ノ處分トハ行政上ノ處分ヲ以テ爲ス  
○以テ免シタルニ非ラズ其政策上犯人ヲシテ專ラ改良スルノ意ニ因ルナリ

○十九條ノ例ニ從フトハ老體相應ノ役ニ服サシムルヲ云フ

第廿一條 無期流刑ノ四五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ

幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得  
有期流刑ノ四三年ヲ經過スル者亦同シ

第廿二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ

滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ重懲役ハ九年以上十一年以下



○内地ノ獄ニ入レトハ  
島地ニ非ラサル内地  
ノ獄ニ繋キ置クヲナ  
云フ

輕懲役ハ六年以上八年以下ト  
爲ス

第廿三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入

レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下

輕禁獄ハ六年以上八年以下ト

爲ス

第廿四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置

シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮

ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以

○各本條ニ於テ其長短  
ヲ區別ストハ第二編  
以下ニアル各條ニ何  
日又ハ何月或ハ何年  
以上何日月又ハ何年  
以下ト明記シタルヲ  
云フ

○定役ニ服スル囚人ノ  
工錢トハ其定役ヨリ  
生スル利益ノ銀錢ヲ  
云フ  
○獄舎ノ費用トハ其囚  
獄ノ入用ヲ云フ

上五年以下トナシ仍ホ各本條  
ニ於テ其長短ヲ區別ス

第廿五條 定役ニ服スル囚人ノ

工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾

分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分

ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以

内ハ給與ノ限ニアラス

第廿六條 罰金ハ二圓以上ト爲

シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ

區別ス

第廿七條 罰金ハ裁判確定ノ日

○各本條ニ於テ多寡ヲ  
區別ストハ第二編以  
下ノ各條ニ何圓以上  
何圓以下ト明言シタ  
ルヲ云フ  
○裁判確定ノ日トハ刑



名宣告ヨリ上訴期限三日ヲ過キタルハ以テ其裁判ハ確定スルモノトス

○折算シトハ例ヘハ十日ノ罰金ナルハ十日ト算フルヲ云フ

○納完トハ全ク其罰金ヲ不殘納ムルヲ云フ

○檢察官トハ檢事警部等司法警察ノ任アル官吏ノ總稱ナリ故ニ重罪裁判所輕罪裁判所ハ檢事はテ求メ又違警罪裁判所ニ於テハ警部是ヲ求ムルナリ

○日數ヲ扣除スルトハ例セハ百圓ノ罰金ノ爲メ百日ノ禁錮ヲ言

ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓チ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ

其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタルキハ其經過シタル日數ヲ扣除

渡サレ五十日ノ後罰金ヲ納メント望ムルハ禁錮ニテ經過シタル五十日ヲ除キ殘リ五十圓ヲ納メシメ禁錮ヲ免スナク云

○各本條ニ於テ長短ヲ區別ストアルモノハ第四編以下ノ各條ニ何日以上何日以下トアル是ナリ

○各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ストアルモノハ第四編以下ニ掲クハ各條ヘ何圓以上何圓以下トアルモ何錢以下トアルモ是ナリ

シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第廿八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下トナシ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第廿九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス



○納完トハ其科料ヲ殘  
リナク納ムルヲ云

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日  
ヨリ十日内ニ納完セシム若シ  
限内納完セサル者ハ第二十七  
條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權

ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有

○國民ノ特權トハ例セ  
ハ陪審代官人公證人  
議員トナル等ノ權  
○第二ハ現任官吏將來  
官吏トナルノ權ヲ云

○貴號トハ華族士族又

ハ何學博士ト云カ如

○外國ノ勳章トハ外國  
政府ヨリ送ル所ノ賞  
牌ヲ云

○兵籍ニ入ルトハ徵兵  
ニ招募セラルカ如  
キヲ云

○單ニ事實ヲ陳述スル  
トハ證據立ツル爲メ

ニ陳述スルニアラス  
只其知リタルヲ丈ケ  
テ言陳ルニ止ルナリ

○親族トハ第百十三條  
ニ記スルモノヲ云フ

○分散者トハ其財産ヲ

スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ

權但單ニ事實ヲ陳述スルハ

此限ニアラス

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ

許可ヲ得テ子孫ノ爲メニス

ルハ此限ニアラス

八 分散者ノ管財人ト爲カ又ハ



債主ニ分與スルヲ云フ  
 ○管財人トハ分散者ノ財産ヲ監督スル責任ヲ有スル者ヲ云フ  
 ○共有財産トハ數人ニテ一ノ財産ヲ持ツトナ共有ト云フ  
 ○學監トハ學校ノ取締役ヲ云フ

會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラ

○宣告ヲ用ヒストハ言渡ナクシテ公權ヲ剝奪スルヲ云フ

レタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

○現任トハ其時現ニ任セラレテアル官吏ノ職ヲ失フヲ云フ

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任

○監視ノ期限間トハ其監視六ヶ月ノ期限ナレハ公權停止モ又六ヶ月ナルノ類

ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ

用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付シ

タル者又同シ

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラ

レタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ親カラ財産

○主刑ヲ免シテ監視ニ付スルトハ第百廿六條ノ如キ場合ヲ云フナリ  
 ○自カラ財産ヲ治ムルヲ禁スルトハ則私權ニシテ其内ノ一ニテ例ヘンニハ人ト契約ヲナシ又人ニ已レ



ノ財産ヲ賣リ又ハ人  
ヨリ買入レ又ハ人ノ  
契約ノ證人トナルノ  
類  
○其犯人ノ財産保護ノ  
方法ハ民法ニ定ムヘ  
キコニシテ此刑法ヘ  
掲ケス  
○行政ノ處分トハ則行  
政上ノ處分ニシテ司  
法上ノ處分ニ非ラサ  
ルヲ云フ行政ノ處  
分ヲ以テ免スル所ノ  
モノハ只假ニ是ヲ免  
スルノミ

チ治ムルヲ禁ス  
第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免  
セラレタルキハ行政ノ處分ヲ  
以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スル  
ヲ得  
第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラ  
レタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス  
各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シ

○輕罪ノ刑ニ附加スル  
監視トハ輕重禁錮ニ  
附加シ又ハ第二百十  
一條第三ノ場合ヲ爲  
サントシ未タ行ハス  
シテ自首免罪ヲ受タ  
ルモノニ附加其他各  
本條ニ記シ何年以上  
何年以下トナルモノ  
是ナリ  
○刑ノ期滿免除ヲ得タ  
ル者有期ナレハ短期  
ノ三分一ヲ以テ監視  
ノ期限トス此條ハ無  
期ナルヲ以テ五年ヲ  
監視ニ付スルノ期限  
トス

キ時間監視ニ付ス  
第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加ス  
ル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條  
ニ記載スルノ外監視ニ付スル  
ヲ得ス  
第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ  
期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣  
告ヲ用ヒス五年間監視ニ付  
ス

○主刑ノ終リタルトハ

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ



○例ハハ徒刑十三年ノ  
 言渡チ受タル者ハ十  
 三年ノ日ヲ經過シタ  
 ル日ヲ初日トス  
 ○期滿免除ノ期限ヲ經  
 過シタル者ニハ其捕  
 二付キタル日ヨリ監  
 視ノ期限ヲ起算ス其  
 捕ニ就カサル前ハ監  
 視ヲ付サント欲スル  
 モ本人ノ所在ヲ知ル  
 二由ナキヲ以テ到底  
 得ヘカラサレハナリ  
 ○主刑ヲ免シタルモノ  
 ハ其免スル旨ノ裁判  
 言渡ノ後三日間上訴  
 期限ノ過キ其裁判確  
 定ノ日ヨリ起算スル  
 ナリ

○情狀トハ悔悟シテ善

終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ  
 期滿免除ヲ得タルキハ其捕ニ  
 就キタル日ヨリ起算ス  
 若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ  
 付シタルキハ其裁判確定ノ日  
 ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタ

○又未タ惡念ヲ改メサ  
 ルヤチ云  
 ○若シ免シタル後尙惡  
 意アリト見認ムルキ  
 ハ直ニ其處分ヲ取消  
 ストチ得ルモノナリ  
 ○附加ノ罰金ヲ禁錮ニ  
 換フルハ本刑ノ期限  
 終リタル日ヨリ更ニ  
 禁錮トナス例ハ重  
 禁錮三月ニ五十圓ノ  
 罰金ヲ附加シタルキ  
 ノ如キハ重禁錮三ケ  
 月執行終リタル後更  
 ニ罰金ヲ換ヘタル輕  
 禁錮五十日ヲ科スル  
 ノ類ナリ

○官ニ沒收スルトハ官

ル者其情狀ニ因リ行政ノ處分  
 ナ以テ假ニ監視ヲ免スルトチ  
 得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ  
 宣告ス若シ一月内ニ納完セサ  
 ルキハ第二十七條ノ例ニ照シ  
 輕禁錮ニ換ヘ主刑滿期ノ後之  
 ナ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物  
 件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法



○ 取揚ルヲ云フ  
 ○ 別ニ沒收ノ例ヲ定メタルトハ例ハ何々ハ是ヲ沒收スヘシト法令規則ヲ以テ特別ニ規定シタルモノヲ云例ハ第六十一條ノ類モ又特別ノ沒收ナリ  
 ○ 制禁ノ物件トハ一二ノ例セハ贗造貨幣ノ器械又ハ贗造ノ金銀紙幣等ノ類ヲ云  
 ○ 犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ例ハ人ヲ殺シタル刀鎗又人ヲ打殺シタル銃砲ノ類ナリ  
 ○ 犯罪ニ因テ得タル物件トハ例セハ贗札ヲ以テ正札又ハ物件ヲ

律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

買ヒタル片其正札又ハ物件ハ則犯罪ヨリ得タルモノナリ  
 ○ 法律ニテ禁制シタル物件ハ社會ニアツテ危險ノモノナリ故ニ誰ノ所持ニ拘ハラヌ取揚ルナリ  
 ○ 犯人ノ所有トハ其犯人ノ品ニテアリシキヲ云  
 ○ 所有主ナキトハ全ク所有主ナキモノト所有主ヲ知ルヲ得ル時トアリ  
 ○ 徵償處分トハ損害ノ償贓物ノ返還等ノ事ヲ處分スルヲ云  
 ○ 裁判費用トハ其事件ニ就テ費ス所ノ金額

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハズ之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ片ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

第四節 徵償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ



チ云

- 刑ニ處セラレトハ刑ノ言渡チ受ケ其刑ヲ執行サレタルヲ云
- 放免トハ無罪ニ歸シ放免サレタルノ類チ云
- 贓物トハ不正ニ得タル所ノ物件チ云還給トハ返シ戻スヲ云
- 數人共犯トハ二人以上ニテ申合セテ犯罪ヲ行フタルヲ云
- 連帶トハ其共犯人ノ數ニ割テ費用其他チ

其全部又ハ幾分チ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則チ以テ之チ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレ、ト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償チ免カル、トチ得ス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人チシテ之チ連帶セシ

償フニ非ラスシテ其内ノ償フヲ得ル身代アルモノアルキハ此者一人ニテモ償フベキチ云

- 請求トハ是チ求ムルヲ云
- 還付トハ返シ遣スヲ云
- 刑期トハ刑ノ期限チ云フ計算トハ算フルヲ云

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之チ審判スルヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアルキハ請求ナシト雖モ直チニ之チ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期チ計算スルニ



○曆トハ一月一日ヨリ十二月卅一日迄ヲ以テ一年トシテ記シタル書ヲ云

○受刑ノ初日トハ刑ヲ言渡サレタル日ヲ云

○放免ノ日トハ其刑ノ執行ノ期限終テ放免セラル、日ヲ云

○裁判確定トハ上訴期限全ク経過シタル時ヲ云例ヘハ其言渡翌日ヨリ三日ヲ過キ刑ノ言渡ハ確定スルナリ

○上訴トハ治罪法第四

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從テ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ

百十條等ニ從テ是ヲ訴フルコトヲ云

○上訴正當ナルトハ前裁判不當ナルコトヲ云

○後判トハ上訴ニ依テ前裁判ヲ破毀シ再度裁判宣告ヲナシタル時ヲ指ス

○檢察官ノ上訴トハシテ檢察官ノ上訴ト記スルノ理由ハ違警罪ノ如キハ檢事ノ職ヲ行フモノハ警部ニ

日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナルトハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス



シテ且輕罪裁判所へ  
控訴チナス場合モア  
レハナリ

○前後受刑ノ日ヲ計算  
スルトハ例ヘハ一月  
一日ヨリ二十日ノ禁  
錮ニ處セラレタル者  
一月十日ニ逃走シ一  
月廿日ニ捕ニ就キタ  
ルキハ一月三十日迄  
禁錮シ逃走前ノ十日  
ト捕縛後ノ十日ト合  
算シテ二十日トナル  
ノ類ヲ云

○獄則トハ監獄ノ規則

三上訴中保釋ヲ得又ハ責付セ  
ラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ  
算入スルヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再  
ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ  
日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計  
算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處

○謹守トハ能ク其規則

○悛改ノ情トハ其犯人

○悔悟シテ再ヒ惡業ヲ

○爲サルヘシト推測

○セラレ、景狀アルヲ

○云

○刑期四分ノ三トハ十

○二年ノ徒刑ナレハ九

○年ヲ經過シタルキノ

○類ヲ云

○假出獄トハ假ニ獄ヲ

○出シ自由ヲ得セシム

○ルヲ云然レモ監視ヲ

○付セラレ、モノトス

○徒刑人ハ刑期ノ終ラ

○サレハ内地ニ入ルヲ

○ナ許サス故ニ島ノ地

セラレタル者獄則ヲ謹守シ悛

改ノ情アルキハ其刑期四分ノ

三ノ經過スルノ後行政ノ處分

ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過

スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ

幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例

ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄

ヲ許サル、ト雖モ仍ホ島地ニ



○治産ノ禁ノ幾分トハ其己レノ財産ヲ自由ニシ人ト賣買ノ契約ヲナシ又ハ人ニ物品ヲ贈與スル等其他私權ノ一部分ヲ行フヲ免スチ云

○特別ノ監視トハ此者監視ニ付セラレヘキ刑ノ種類ニ非ラサルモ此場合ニハ監視ニ付スルモノナリ

○假出獄中更ニ重罪輕罪ノ刑ニ該ルヘキ所爲アルキトハ例ヘハ十二年ノ徒刑ノ者九年ヲ經過シ假ニ出獄ヲ免サレ二年ヲ經テ重罪ヲ犯シタルキハ

居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得ス

ニ出獄ノ效ヲ失ヒ其時ヨリ更ニ三年殘リノ刑ヲ執行サル、チ云

○期滿免除トハ法律ニ定メタル期限ヲ經過シタルニ依テ其刑ノ執行ヲ免スチ云然レモ罪跡ノ消ユルニ非ラス再ヒ罪ヲ犯セハ再犯トナルモノナリ

○主刑ハ必ラス宣告シテ是ヲ執行スルモノニシテ死刑ヨリ科料

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得



マテトス而シテ本條ニ記スル年限ヲ經過スルニ於テハ最早善良ニ歸シ社會モ其犯人ヲ危險ノ人ナリトスルヲ遺忘シタルモノト見做シ刑ノ執行ヲ免スルナリ

○剝奪公權ハ刑ノ執行終ルモ消ユルヲナク又監視ハ刑ノ執行終リシ時ヨリ始マルモノニシテ停止公權モ又監視ト共ニ付セラレタルキハ同ク刑ノ

- 一 死刑ハ三十年
  - 二 無期徒刑ハ廿五年
  - 三 有期徒刑ハ二十年
  - 四 重懲役重禁獄ハ十五年
  - 五 輕懲役輕禁獄ハ十年
  - 六 禁錮罰金ハ七年
  - 七 拘留料料ハ一年
- 第六十條 剝奪公權停止公權及  
 ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス  
 附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿  
 免除ヲ得

終リシ片ヨリ效チ生スルモノトス故ニ期滿免除ヲ與ヘス若是等ノ附加刑ニ期滿免除ヲ與フルキハ純然刑ノ執行ヲ終リシ者ハ此附加刑ヲ免カレハ却テ期滿免除ヲ得タル者ハ僥倖ニシテ附加刑迄モ免カレハ至ル不權衡ヲ生スルモノナリ

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタルキハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ルキハ其宣告ノ日ヨ

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ非ラス



不在ノ儘證據ニ依テ  
裁判ヲ言渡スヲ云フ

○逮捕ヲ命シタルキト  
ハ治罪法ノ規則ニ從  
テ令狀ヲ發ス此場合  
ニ於テハ最終ニ令狀  
ヲ發シタル日ヨリ起  
算スルナリ

○公權ヲ剝奪サレタル  
者其本刑ノ期限ヲ終  
リシ日ヨリ五年ヲ經  
過シテ其犯人能悔悟  
ノ情ヲ表シ後來危險  
ナシトスルキハ復權  
ヲ許サル、モノトス  
其手續ハ治罪法ニア

リ起算ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタ

ル者ニ對シ逮捕ヲ命シタルキ  
ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨ  
リ期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレ  
タル者ハ主刑ノ終リタル日ヨ  
リ五年ヲ經過スルノ後其情狀  
ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコ  
ト得

○主刑ノ期滿免除ヲ得  
タル者ハ刑ノ執行ヲ  
終リシ期日ヲシテ故  
其監視ニ付セラレタ  
ル日ヨリ五年ヲ起算  
スルナリ

○大赦トハ皇帝ヨリ其  
罪人ヲ赦免サル、コ  
ト云ハ其執行中ノ罪人  
モ其未タ刑ヲ受サル  
犯人モ共ニ赦免セラ  
ル、モノトス

○特赦トハ其罪人ノ行  
ヒ能キカ又ハ能ク獄  
則テ守ル等ニテ改心  
シタルノ狀アルモノ  
ハ治罪法ニ從テ檢察  
官又ハ監獄長ヨリ申  
立ツルモノトス  
○勅裁トハ皇帝ヨリ許

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ

監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ

經過スルノ後亦同シ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ

得タル者ハ直チニ復權ヲ得特

赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦

狀中記載スルニ非サレハ復權

ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自

ラ監視ヲ免シタル者トス

第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サ



可チナシ玉フヲ云

○加重減輕トハ或ハ一等チ加フルチ加重ト云又一等二等チ減スルチ減輕ト云

○加ヘテ死ニ入ルヲ得ストハ無期徒刑ノ犯人ニ一等チ加フルキハ死罪トナル然レモ死刑ニナスコトナシ

○常事犯ノ刑ハ此順ニ加重減輕スルナリ死刑ノ一等チ減スレハ

レハ之ヲ得可カラス

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加

重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ

記載シタル例ニ照シテ加減ス

但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等

級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪

ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期流刑

三有期流刑

四重禁獄

五輕禁獄

○第六十八條ハ國事犯ノ刑ノ加重減輕ノ順序ヲ掲ケタルモノナリ其加減ノ方法常事犯ト同シ

無期徒刑トナリ又無期徒刑ノ一等チ減スレハ有期徒刑トナル是ナリ又輕懲役チ加フルハ一等チ加フルハ重懲役トナレハ有期徒刑トナル



○輕懲役ノ刑ヲ減輕スルキハ輕罪ノ禁錮トナルナリ禁錮ハ十一日以上五年以下ナルヲ以テ是ニ制限ヲ設ケ二年以上五年以下トナシタルモノナリ

○輕禁獄ヨリハ輕禁錮ニ下スモノハ重禁錮ハ常事犯ノ刑ニシテ國事犯ニ適用スルヲ得サレハナリ

○各本條ニ記載シタルトハ何月以上何月以下又何圓以上何圓以下トアルモノ是ナリ  
○刑期金額四分ノ一ヲ加減スルトハ例ヘハ十圓以下百圓以下ノ

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重

ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス  
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

○禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得ルトハ禁錮ハ五年ノ長期ナレハ加ヘテ長期ヲ越シ七年ニ至ルヲ得ルナリ  
○禁錮ヲ減盡シテトハ數等ヲ減シテ遂ニ科スルノ刑ナキニ至ルキハ是ヲ無罪トセス  
拘留料ニ處スルナリ又減シテ十日以下一圓九十五錢以下ニ

○禁錮ヲ減盡シテトハ數等ヲ減シテ遂ニ科スルノ刑ナキニ至ルキハ是ヲ無罪トセス  
拘留料ニ處スルナリ又減シテ十日以下一圓九十五錢以下ニ

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數

ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス  
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得



至リタルキハ禁錮罰  
金ノ名義ヲ付スル  
ヲ得ス故ニ拘留科料  
ノ名義ニテ罰ス

○違警罪ノ刑ヲ加ヘテ  
輕罪ニ入ルヲ得サ  
ルモノ尙輕罪ノ刑ヲ  
加ヘテ重罪ニ入ルヲ  
得サルト同一ノ理  
ナリ

一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ  
亦拘留科料ニ處スルヲ得  
第七十二條 拘留科料ニ該ル者  
加減スヘキ時ハ禁錮罰金ノ例  
ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スル  
ヲ以テ一等ト爲ス  
違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入  
ルヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十  
二日ニ至ルヲ得減シテ一日  
以下ニ降スヲ得ス科料ハ加  
ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得

○零數トハ一日ニ滿タ  
サルモノヲ云フ例ハ  
ハ十三日以上一月以  
下ノ四分ノ一ハ則チ  
三日ト六時間ト七日  
ト十二時間トナル故  
ニ短期ノ六時間ト長  
期ノ十二時間ト零數  
ナルヲ以テ除キ則チ  
十日以上廿三日以下  
トナルノ類ヲ云一  
等チ減スル場合ノ一  
例ナリ  
○罰金加減ノ方法モ又  
禁錮拘留ノ方法ト同

減シテ五錢以下ニ降スヲ得  
ス  
第七十三條 禁錮拘留ヲ加減ス  
ルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ  
一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス  
第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑  
ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ



○抗拒スヘカラサル強  
制トハ例ヘハ何々ノ  
殺スヘシト云カ如キ  
止メント欲スルモ止  
ムル能ハサル強迫チ  
云  
○天災意外ノ變ニ因リ  
避ク可カラサルノ危

一チ加減スルヲ以テ一等ト爲  
ス若シ減盡シタル時ハ止テ主  
刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕  
第一節 不論罪及ヒ宥恕  
減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル  
強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所  
爲ハ其罪ヲ論セス  
天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク  
可カラサル危難ニ遇ヒ自己若

難トハ出火ノ際逃  
道ヲ失ヒ他人ノ家  
ヲ毀タサレハ燒死ス  
ル場合ニ望ミ他人ノ  
家ヲ破壊シタルノ類  
チ云  
○本屬長官ノ命令トハ  
長官ノ申付タルヲ  
云

シハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ  
出タル所爲亦同シ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ  
從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者  
ハ其罪ヲ論セス

○犯スノ意ナキトハ此  
惡業チスヘシト云念  
慮ナクシテナシタル  
ヲ云  
○法律規則ニ於テ罪ヲ  
定メタルトハ例セハ  
第三百十七條以下ノ  
類又此刑法外ノ規則  
ニモ定メタルモノア

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ  
所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規  
則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者  
ハ此限ニ在ラス  
罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラスシ



○ルヘシ  
罪トナルヘキ事實ヲ  
知ラストハ人ノ妻ト  
ナツタルヲ知ラス  
姦通シタルノ類ヲ云

○法律ヲ知ラサルヲ  
口實トシテ犯スノ意  
ナシトナスヲ得ス  
前項ニ云所ハ法律規  
則ハ知テ其事柄ノ罪  
トナルヘキヲ知ラ  
サルヲ云フナリ

○知覺精神ノ喪失トハ  
神心錯亂シテ是非ヲ  
辨セサルモノ發狂人  
等ノ類ヲ云

テ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス  
罪本重カル可クシテ犯スル者ハ其重キニ從テ論ス  
ルヲ得ス  
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯  
スノ意ナシト爲スヲ得ス  
第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精  
神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セ  
サル者ハ其罪ヲ論セス

○情狀トハ再ヒ犯スヘ  
キカ又再ヒ犯シタル  
片ハ大ニ社會ヲ傷害  
スル恐レアル種類ノ  
犯罪ナルキカ其犯狀  
ニ因リ定ムルヲ云

○其所爲是非ヲ辨別シ  
タルヤ否トハ其所爲  
ヲ行フテハ惡數ク社  
會ハ損害ヲ受クル事  
柄ナリト云フヲ知テ  
ナシタルヤ否ヲ審案  
スルヲ云

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳  
ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但  
滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ  
滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ  
懲治場ニ留置スルヲ得  
第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳  
以上十六歳ニ滿サル者ハ其所  
爲是非ヲ辨別シタルト否トナ  
審案シ辨別ナクシテ犯シタル  
時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因  
リ滿二十歳ニ過キサル時間之



○懲治場トハ禁錮場拘留場トハ異リ別段ニ設ケタル懲治場ナルヘシ

ナ懲治場ニ留置スルコトヲ得  
若シ辨別アリテ犯シタル時ハ  
其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ  
減ス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六  
歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其  
罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減  
ス

○瘖啞トハ口ニ言ハシ  
ト欲シテ言事能ハサ  
ルモノヲ云

第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタ  
ル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ  
因リ五年ニ過キサル時間之ヲ

懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳  
以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ  
其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ス  
滿十二歳以上十六歳ニ滿サル  
者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一  
等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及  
ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス  
第八十四條 此節ニ記載スルノ  
外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各  
本條ニ於テ之ヲ記載ス

○特別ノ不論罪トハ第  
三百十五條等ノ類是  
ナリ



○自首トハ其己レノ犯シタル罪ノヲ自カラ訴出ルモノヲ云

○謀殺トハ前ヨリ謀テ人ヲ殺シタルモノニ

ノ故殺トハ卒然殺氣ヲ生メ殺シタルヲ云

○財産ニ對スル罪トハ第三百六十條以下ノ如キヲ云

○全部トハ人ノ物ヲ盜

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發

覺セサル前ニ於テ官ニ自首シ

タル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但

謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕

ノ限ニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ

犯シタル者自首シテ其贓物ヲ

還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ

自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等

ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖

○其贓物ヲ全ク不殘返還スルヲ云

○半數以上トハ例セハ十圓ノモノヲ竊ムハ五圓以上ヲ返還スルノ類ヲ云

○被害者ニ首服スルトハ例ハ其盜ミタル者盜マレタル者ニ己レノ盜ミタルヲ申出スヲ云

○別ニ自首ノ例ヲ掲ケタルトハ例セハ第百廿六條ノ類ヲ云フ

モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ

犯シ被害者ニ首服シタル者ハ

官ニ自首スルト同ク前二條ノ

例ニ照シテ處斷ス

第八十八條 此節ニ記載スルノ

外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタ

ル者ハ各其本條ニ從フ

第三節 酌量減輕



○所犯情狀トハ其犯シタル所ノ情狀憐レムヘキ者ヲ云例セハ親ノ饑死セシトナ患ヒ他人ノ穀物ヲ盗ミタル者ノ如キハ其犯情憐レムヘキモノトス總テ其犯シタル情ニヨリ酌量シテ減等ヲスルナリ

○子ノ親ニ對スル犯罪ノ如キ加重スルモノナリ然レモ又其犯罪ノ原由憐レムヘキ情アルキハ加重ニ拘ハラズ酌量リテ減等ヲスルヲ得ルヲ云

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ

分タス所犯情狀原諒スヘキ者

ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ

得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ

減輕スヘキ者ト雖モ其酌量スヘ

キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ

本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

○再犯トハ罪ヲ犯シテ一度其宣告ヲ受ケタル後再度罪ヲ犯シタルヲ云

○前ニ輕罪ヲ犯シ再度重罪ヲ犯シタルキハ加重セストナレハ再犯ハ既ニ前犯ヨリ重ケレハナリ

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處

セラレタル者再犯重罪ニ該ル

時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑

ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ

該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ

處セラレタル者再犯違警罪ニ

該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但

一年內再ヒ其違警罪裁判所ノ



○管轄地内トハ例ヘハ何町ノ違警罪裁判所ハ何町ヨリ何町迄ヲ管轄スルト云區畫ヲ設ケタルヲ云

○裁判確定ノ後ハ載テ第五十條ニ掲シ

○刑期限内トハ其刑ノ言渡ヲ受ケ其刑ノ執行中ヲ云フ

○其定役アルトハ常事犯ノ刑ヲ云唯常事犯ニシテ定役ナキモノハ輕禁錮ノミ

管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先其定役ニ服スヘキ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服

○順席ニ拘ハラストハ重キヲ先ニスルノ順ヲ逐フニ非ラス

○判決トハ裁判ヲナシ言渡アリシヲ云  
○常律ニ從ヒ處斷シタルトハ通常ノ律ヲ以テ陸海軍裁判所ニテ言渡タルキヲ云

スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス  
罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徵收ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス



○大赦トハ皇帝ヨリ勅令ヲ以テ其罪ヲ赦免サル、ナ云

○三犯以上トハ三度犯罪アリシ以上ナ云

○總則ニ照ラシトハ第一條ヨリ第一百五條迄ヲ總則トス此ケ條中ニ照ラスナ云  
○同時ニ加重減輕スヘ

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ

得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖

モ再犯ヲ以テ論スルコト得ス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖

モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同

シ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ

總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重

減輕スヘキ時ハ左ノ順序ニ從

テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未

○數罪俱發トハ度々犯シタル所ノ罪一時ニ發覺シタルヲ云

キトハ例ヘハ再犯ノ者ニ酌量ノ情アルキ又ハ十六歳以下ノ者ノ再犯等ノ類ヲ云

遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記

載スル特別ノ加重減輕ハ其加

減シタル者ヲ以テ本刑ト爲

ス

一 再犯加重

二 宥恕減輕

三 自首減輕

四 酌量減輕

第七章 數罪俱發

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判

決テ經ス二罪以上俱ニ發シタ



○所犯情狀トハ其犯ス  
所ノ情狀ノ一番重キ  
モノヲ以テ罰セラレ  
、ナリ

○判決ヲ經テ餘罪後ニ

ル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス  
重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以  
テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ  
定役アル者ヲ以テ重ト爲ス  
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ  
者ニ從テ處斷ス  
第一百一條 違警罪二罪以上俱ニ  
發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若  
シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタ  
ル時ハ一ノ重キニ從フ  
第一百二條 一罪前ニ發シ已ニ判

發ストハ一ト度宣告  
ヲ受ケタル後又其裁  
判前ニ犯シタル罪カ  
顯ハル、チ云若後ニ  
發シタル罪カ重ケレ  
ハ後ニ發シタル罪ヲ  
科セラレ前ニ宣告ヲ  
受ケ執行サレタル日  
數ハ後ノ重キ罪ノ日  
數ノ内ニテ差引ナ  
スナリ

決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク  
若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス  
其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發  
ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス  
但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已  
ニ納完シタル者ハ第二十七條  
ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑  
期ニ通算ス  
若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未  
ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ  
發シタル者ハ其再犯ト比較シ



○數罪俱發ハ一ノ重キニ從フト雖モ其第四十三條第四十四條ニ云フ沒收ノ處分並ニ第四十五條以下ニ云フ徵償處分ハ各自ニ是ヲ行フナリ

○正犯トハ罪ヲ犯シタル者從犯トハ罪ヲ犯スルヲ助ケタル者ナリ

一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セズ

第三百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第一百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

○教唆トハ人ヲシテカシタルヲナリ例ハ人ニ辱メテ受ケタリト云者ニ對シ汝ハ弱シ彼ヲ殺スヘシト云ノ類ナリ  
○身分ニ依リ別ニ刑ヲ加重スルトハ例ハ第三百六十二條第三百六十三條ノ如キ是ナリ

○犯人ノ多數ニ因リ加重スルトハ例ハ第四百七十一條ノ第四項又第三百六十九條又第三百七十九條第二項ノ類是ナリ  
○事ヲ指定シトハ誰ヲ

第一百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第一百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホス

得ス  
犯人ノ多數ニ因リ刑

第四百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重スヘキ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數トナスヲ得ス  
第八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ



殺スハ何々ノ方法ヲ以テスルハ易シ誰ノ財ヲ盗ムハ何レノ場所ヨリ入ルハ易シト云カ如キテ云

○若シ竊盜ヲ教唆シタルハ其ノ以外ノ強姦ノ罪アリタル時ノ如キハ其ノノカシタルモノハ竊盜ノ罪ヲ科セラル

○若シ人殺ヲオシヘソ

教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス  
一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス  
二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ

ノカシタルハ其者殺スヲ得ス只毆打シタルニ止ルキハ其ソ、ノカシタル者ハ毆打ノ罪ヲ科スルヲ云

○罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與スルトハ例ヘハ強盜ニ入ラシメテ企タル者ニ刀鎗ヲ給與シテ勢力ヲ助ケタルノ類  
○誘導指示シトハ其方法ヲ指示スナリ  
○正犯ヲ幫助シトハ其所爲ヲヨシトナシテ容易ナラシムルトハタヤスシク犯罪ヲトケ

時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第二節 從犯

第九條 重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯トナシ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重



シムルナリ

○身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキ者從犯ナルトハ例ヘハ己レノ親ヲ強迫スル者ニ從犯タル子ノ如キヲ云

○正犯ノ身分ニ因リ減免スルトハ例ヘハ第三百七十七條ノ如キ竊盜ノ正犯ハ親族ニシテ從犯ハ他人ニテアリシ場合ノ如キヲ云

キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第一百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重

スヘキ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス

ヘキ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルヲ得ス

第九章 未遂犯罪

第一百十一條 罪ヲ犯サントシテ謀

○豫備ヲ爲ストハ人ヲ殺サント謀リ刀鎗ヲ買求メ又一揆ヲ起サントシテ竹鎗ヲ拵ヘタルノ類

○障礙トハ竊盜ニ入ラントスルハ巡更ノ家内ニ忍ヒ入ラントスルハ人ノ未タ寢ムラサル如キヲ云舛錯トハ過テ手筈ヲ取違ヒタルヲ云

○本條ハ重罪輕罪ヲ犯

リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第一百十二條 罪ヲ犯サントシテ

已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサルハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第一百十三條 重罪ヲ犯サントシ



サントシテ未タ其事  
ヲ行ハサルニアリ重  
罪ハ前條ノ例ニ照シ  
輕罪ハ各條ニ記載ス  
ル所ニ依ルナリ

テ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例  
ニ照シテ處斷ス  
輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ  
サル者ハ本條別ニ記載スルニ  
非サレハ前條ノ例ニ照シテ處  
斷スルヲ得ス  
違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂  
ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章 親屬例

第百十四條 此刑法ニ於テ親屬  
ト稱スルハ左ニ記載シタル者

チ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姊妹ノ子及ヒ其配偶者
- 五 父母ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 六 父母ノ兄弟姊妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母父母
- 八 配偶者ノ兄弟姊妹及ヒ其配  
偶者

○配偶者トハ例ヘハ子  
ノ妻ハ己レノ子ノ配  
偶者又娘ノ夫モ則己  
レノ娘ノ配偶者ナリ

○兄ノ妻ハ則兄ノ配偶  
者又姉ノ夫ハ則姉ノ  
配偶者ナリ

○夫ヨリハ妻ノ祖父母  
父母ヲ指シ妻ヨリハ  
夫ノ祖父母父母ヲ指  
ス



○嫡母トハ妾出ノ子ヨ  
リ父ノ本妻ヲ指スノ  
稱ナリ  
○庶子トハ妾出ノ子ヲ  
云

九配偶者ノ兄弟姉妹ノ子  
十配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹  
第百十五條 祖父母ト稱スルハ  
高會祖父母外祖父母同シ父母  
ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子  
孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫  
同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父  
異母ノ兄弟姉妹同シ  
養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ  
實子ニ同シ

○危害トハ總テ御身體  
ニ對シ奉リ御害トナ  
ルヘキヲ云

○不敬トハ故サラニ尊  
敬スヘキ道ヲ失ヒ禮  
節ヲ欠クヲ云

○山陵トハ天子ノ御墓

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪  
第一章 皇室ニ對スル罪  
第百十六條 天皇三后皇太子ニ  
對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘント  
シタル者ハ死刑ニ處ス  
第百十七條 天皇三后皇太子ニ  
對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月  
以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ  
二十圓以上二百圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス  
皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者



ナ云フ

○皇族トハ天子ノ御一族中ヲ云フ

亦同シ

第百十八條

皇族ニ對シ危害ヲ

加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危

害ヲ加ヘントシタル者ハ無期

徒刑ニ處ス

第百十九條

皇族ニ對シ不敬ノ

所爲アル者ハ二月以上四年以

下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百二十條

此章ニ記載シタル

罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者

○顛覆トハ時ノ政府ヲ

シツガヘスヲ云フ

○邦土ヲ僭竊ストハ例

ヘハ相馬ノ將門カ猿

島ニ據テ朝命ニ從ハ

サルカ如キ則チ己レ

ノ威權ニ從フ所ノ一

國又ハ數國ヲ鎖シテ

朝命ヲ容レサルヲテ

云朝憲ヲ紊亂スルトハ

○朝廷ノ掟ヲ亂スヲ

ハ六月以上二年以下ノ監視ニ

付ス

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第百廿一條 政府ヲ顛覆シ又ハ

邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂

スルトチ目的トナシ内亂ヲ起

シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處

斷ス



○首魁トハ頭ナリ

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

○群衆ニ指揮トハ集ル所ノ大勢ノ人ニ指圖ヲナスナリ

二 群衆ノ指揮ヲナシ其他樞要ノ職務ヲナシタル者ハ無期

○樞要ノ職務トハ其事ニ預リ重キ責任アル職務ヲ云フ

流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

○資給シトハ給與スルヲ云

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ附加隨行シ又

○雜役トハ其犯人ニ使役サレ或ハ荷物ヲ運ヒ或ハ賄ヲナス等ヲ云

ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

○軍備トハ其イロサニ備フヘキヲ云

第百廿二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

○政府ヲ變亂スルトハ政府ヲ亂スニアリ

○兵ヲ舉ルトハ多人數

第百廿三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉ルトニ至ラスト雖モ内



ト申合政府ニ敵對ナ  
ナスヲ云

亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下  
手者ヲ死刑ニ處ス  
第三百廿四條 前三條ノ罪ハ未遂  
犯罪ノキニ於テ乃チ本刑ヲ科  
ス

○招募トハ招キ集ムル  
ヲ云

○準備トハソナヘテナ  
スナリ豫備トハアラ  
カシメ備フルナリ

○陰謀トハ竊カニ謀リ  
其惡事ヲナサントス  
ルヲ相談スルヲ云

第三百廿五條 兵隊ヲ招募シ又ハ  
兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ  
豫備ヲナシタル者ハ第二百二十  
一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス  
内亂ノ陰謀ヲナシ未タ豫備ニ  
至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

○集會所トハ其内亂ノ  
事ヲ相談スル場所ヲ  
云

○内亂ニ關セサル重罪  
輕罪トハ内亂ニ乘シ  
婦女ヲ強姦シ又ハ財

第三百廿六條 内亂ノ豫備又ハ陰  
謀ヲナスト雖モ未タ其事ヲ行  
ハサル前ニ於テ官ニ自首シタ  
ル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三  
年以下ノ監視ニ付ス  
第三百廿七條 内亂ノ情ヲ知テ犯  
人ニ聚會所ヲ給與シタル者ハ  
二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ  
處ス  
第三百廿八條 内亂ニ乘シテ人ノ  
身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ



物ヲ奪ヒ取等ノ一ヲ指ス

關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

第百廿九條 外國ニ與シテ本國

○抗敵トハ敵對ヲナス

○背叛トハ本國ニソム

キ外國ニ從ヒ敵兵ノ助ケヲナスヲ云

ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

○交戰トハ戰ヒテ始メタルヲ云

○誘導トハミチヒキチ

第百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若ク

○都府トハ三府五港ノ如キヲ云フ

○城塞トハ諸城々等ヲ云

ハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第百三十一條 本國及ヒ同盟國

○軍情機密トハ軍サノ謀リ事ノ相談等ヲ云

○險夷トハ道路ノ險阻又ハ平坦ノ地等ヲ示スヲ云

ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス

○間諜トハ敵ノマハシモノニシテ軍事ノ情ヲ探ルヘキ爲メ敵國

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿



へ入込ム者ヲ云フ

○通謀トハ敵國ト謀ル  
ヲ云フ

○賂遺トハワイロノヲ  
云フ

○缺乏トハ軍備ヲ欠キ  
タルヲ云フ

○私ニ戰端ヲ開クトハ  
政府ノ令ニ非ラスシ  
テ一己ノ量見ヲ以テ  
外國ト戰フヲ云フ

シタル者亦同シ

第三百三十二條 陸海軍ヨリ委任

ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作

ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀

シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令

ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタ

ルキハ有期流刑ニ處ス

第三百三十三條 外國ニ對シ私ニ

戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑

ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等

又ハ二等ヲ減ス

○局外中立トハ甲乙  
戰フキ甲乙何レノ國  
ヘモ從ハズ又何レノ  
國モ助ケサルヲ述  
ベテ何レノ國ノ助  
ナルヲモナサハル  
ヲ云フ

第三百三十四條 外國交戦ノ際本

國ニ於テ局外中立ヲ布告シタ

ルキ其布告ニ違背シタル者ハ

六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ

處シ十圓以上百圓以下ノ罰金

ヲ附加ス

第三百三十五條 此章ニ記載シタ

ル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル

者ハ六月以上二年以下ノ監視

ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪



〇兇徒多衆嘯聚スルトハ一揆徒黨シテ暴動ヲ起サント大勢寄り集ルヲ云  
〇解散トハ其大勢集リタルモノカ解キ散スルヲ云

第一節 兇徒聚衆ノ罪  
第三百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚

シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

〇喧鬧トハサワガシク言テ止マザルヲ云  
〇騷擾トハサワガスル

第三百三十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動

ヲ云フ

〇煽動トハチタテハ勢カチ増サシムルヲ云

ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附加隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十八條 暴動ノ際人ヲ殺

死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタルキハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス

〇燒毀トハヤキコボツヲ云



○法律規則ヲ執行スル  
トハ法律規則ノ通り  
ニ處分ヲスルヲ云  
○暴行脅迫トハ亂暴ノ  
振舞ヲ以テ官吏ニ迫  
リ是ヲ拒ムヲ云

首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セ  
サル者亦同シ  
第二節 官吏ノ職務ヲ行  
フヲ妨害スル罪  
第三百二十九條 官吏其職務ヲ以  
テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政  
司法官署ノ命令ヲ執行スルニ  
當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ  
抗拒シタル者ハ四月以上四年  
以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上  
五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○官吏ノ爲スヘカラサ  
ル事件トハ其官吏ノ  
權外ノ一ヲナサシメ  
タルヲ云

○形容トハ形ヲ以テ  
スルヲ  
○侮辱トハ辱カシムル  
ヲ

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス  
可カラサル事件ヲ行ハシメタ  
ル者亦同シ  
第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因  
テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打  
創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加  
ヘ重キニ從テ處斷ス  
第四百十一條 官吏ノ職務ニ對  
シ其目前ニ於テ形容若クハ言  
語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月  
以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ



○刊行ノ文書トハ板ニ起シテ摺立タル書ヲ云フ  
○公然トハ他人ノ聞ク所ニテスルヲ云

五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演説ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第三節 囚徒逃走ノ罪及

ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四百十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

○毀壞トハ毀テ破ルヲ云フ

○原犯トハ初メ犯罪ア

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ナテ論ス

第四百十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判



○ルカ爲メ入監サレタル者ナルヲ以テ其初メノ犯罪ヲ指スノ語ナリ  
○通謀トハ申合タルヲナリ

○兇器トハ總テ人ヲ殺スルヲ得ル程ノ品其他ノ器具トハ例ヘハ獄ヲ破ルヲ得ル物件ヲ總テ云フナリ

決スルキニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス  
第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタルキハ第四百四十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ  
第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓

○劫奪トハ奪ヒ取ルヲ云フ

○看守トハ是ヲ看守ル

以下ノ罰金ヲ附加ス因テ囚徒ノ逃走ヲ致シタルキハ一等ヲ加フ  
第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルキハ輕懲役ニ處ス  
第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又



○護送トハ守護シテ送  
ルヲ云フ

ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシ  
メタルキハ亦前條ノ例ニ同シ  
第四百十九條 前數條ニ記載シ  
タル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ  
遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ  
照シテ處斷ス

○懈怠トハチコタリチ  
云フ

第五百十條 看守又ハ護送者其  
懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラ  
サルキハ二圓以上二十圓以下  
ノ罰金ニ處ス  
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル

○藏匿トハカクマウ  
ヲ云フ  
○隱避トハ竊カニ其犯  
人ヲ隠シサケシムル  
ヲ云フ

囚徒ニ係ルキハ三圓以上三十  
圓以下ノ罰金ニ處ス  
第五百十一條 犯罪人又ハ逃走  
ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタ  
ル者ナルヲ知テ之ヲ藏匿シ  
若クハ隱避セシメタル者ハ十  
一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ  
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス  
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル  
囚徒ニ係ルキハ一等ヲ加フ



○罪證トハ其罪ノ證據トナルヘキモノヲ云フ  
○隠蔽トハ押カクスト云フ

第二百五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメントシテ圖リ其罪證トナル可キ物件ヲ隠蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ルキハ其罪ヲ論セス  
第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

○私ニ權ヲ行フトハ例ヘハ剝奪公權ナルヲ  
○隠蔽シテ教師トナリ又ハ共有財産ノ監財人トナルノ類ヲ云

○違背トハタガヒソムケルヲ云

第二百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタルキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス  
第二百五十六條 前二條ノ罪ハ其



○破裂質トハ例ヘハ雷管ノ如キモノ其他此類ノ危険ヲ生シ安キモノナ云

刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲

彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ

○使令ニ供シタルトハ其雇主ノ令ニ從テ是等ノヲナシタル者

二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ  
前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯ス  
ト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止  
タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ  
各本刑ニ照シ二等ヲ減ス



チ云

○單ニ其用ニ供スヘキ

第一百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯  
 サントシテ未タ遂ケサル者ハ  
 未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
 第一百六十條 第一百五十七條ニ記  
 載シタル物品ヲ私ニ所有シタ  
 ル者ハ二圓以上二十圓以下ノ  
 罰金ニ處ス  
 第一百六十一條 第一百五十七條ニ  
 記載シタル物品ノ製造ニ供シ  
 タル器械ニシテ單ニ其用ニ供

モノトハ只其事ノミ  
 ノ外用フルヲ得サ  
 ル物品ハ沒收スルト  
 云ニアリ

○損壞トハ損シ毀ツコ  
 ナ云フ

○郵便ヲ妨害スルトハ

スヘキ者ハ何人ノ所有テ問ハ  
 ス之ヲ沒收ス  
 第六節 往來通信ヲ妨害  
 スル罪  
 第一百六十二條 道路橋梁河溝港  
 埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタ  
 ル者ハ二月以上二年以下ノ重  
 禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以  
 下ノ罰金ヲ附加ス  
 第一百六十三條 偽計又ハ威力ヲ  
 以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ



通信ノ妨ケヲナスヲ云フ

○條線トハ電信線ヲ云  
○切斷トハ是ヲキルヲ云

○妨害トハサマダケヲナスヲ云フ

阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ  
第百六十四條 電信ノ器械柱木

ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ  
電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三  
月以上三年以下ノ重禁錮ニ處  
シ五圓以上五十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ  
電信ノ妨害ヲナスト雖モ不通  
ニ至ラサルキハ一等ヲ減ス

第百六十五條 瀛車ノ往來ヲ妨

○標識トハ目シルシテ以テ是ヲ知ラシムルモノヲ云フ  
○危険トハアブナキト云フ障礙トハサハハリト云フナリ

○浮標トハ海路ニ浮キテ以テ示シタル目印

○航海ノ安寧トハ海ヲ渡ルニ安キ爲メ設ケル印シヲ云

○詐偽ノ標識トハニモモノ、目印ヲ示シタルヲ云

害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危険ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨

害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十七條 前數條ニ記載シ

タル罪其事務ニ關スル官吏及



○殺傷トハ殺シタリ傷付タリスルヲ云フ  
○毆打創傷トハ人ヲウチキスチ被ムラシメタルヲ云フ

○顛覆トハクツカヘスヲ云フ  
○覆没トハクツカヘシ水ニ没入セシムヲ云フ

ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第百六十八條 第百六十二條ノ

罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百六十九條 第百六十五條第

百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀕

車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シ

タルキハ無期徒刑ニ處シ人ヲ

死ニ致シタルキハ死刑ニ處ス

第百七十條 此節ニ記載シタル

輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵ス

罪

第百七十一條 晝間故ナク人ノ

住居シタル邸宅又ハ人ノ看守

シタル建造物ニ入りタル者ハ

十一日以上六月以下ノ重禁錮

ニ處ス

○故ナクトハ入ルヘキ用モナクシテ入りタルヲ云フ



○牆壁トハ人ノ入ルヘ  
 カラサル爲メ設ケタ  
 ル周圍ニ設クル所ノ  
 堀垣等ヲ云フ  
 ○踰越トハ登リ越ス  
 等ヲ云フ  
 ○鎖鑰ヲ開キトハ其締  
 リノ付キタル門戸ヲ  
 開キ入ルヲ云フ  
 ○犯罪ノ用ニ供スヘキ  
 物品トハ倉庫ヲ破ル  
 ヘキ器械人ヲ威スヘ  
 キ刀鎗其他此類ヲ云  
 フ

若シ左ニ記載シタル所爲アル  
 キハ一等ヲ加フ  
 一 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ  
 鎖鑰ヲ開キテ入りタル時  
 二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可  
 キ物品ヲ携帯シテ入りタル  
 時  
 三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

○人ノ監守スル建造物  
 トハ倉庫物置等其他  
 常ニ人ノ監守スル建  
 物ヲ云

○行在所トハ天子ノ御  
 旅宿ヲ云フ

四 二人以上ニテ入りタル時  
 第百七十二條 夜間故ナク人ノ  
 住居シタル邸宅又ハ人ノ看守  
 シタル建造物ニ入りタル者ハ  
 一月以上一年以下ノ重禁錮ニ  
 處ス  
 若シ前條ニ記載シタル加重ス  
 可キ所爲アルキハ一等ヲ加フ  
 第百七十三條 故ナク皇居禁苑  
 離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入り  
 タル者ハ前二條ノ例ニ照シ各



○破棄トハ破リ捨ルヲ云フ

一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄

スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因

リ特別ニ家産倉庫其他ノ物件

ニ施シタル封印ヲ破棄シタル

者ハ二月以上二年以下ノ重禁

錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタルハ

一等ヲ加フ

第七十五條 官ノ封印ヲ破棄

○毀壞モ又毀ツコナリ

○看守者トハ番人ノ類

○懈怠トハチコタリチ云

シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞

シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各

本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ

因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件

ヲ盜取毀壞スル犯人アルコト

覺ラサルハ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒

ム罪

第七十七條 陸海軍ノ將校



○要求トハ求メテ受ケタルヲ云

○毀傷トハ毀チキヅ、ケルヲ云  
○疾病ヲ作爲ストハ病ヲ作ルヲ云フ

ル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮

○徵募トハメシツノリヲ云應セサルトハ其メシツノリニ從ハサルヲ云

○解剖トハフワケナスルヲナリ

ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス  
第百七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四



○病患ヲ検査スルトハ其病氣ヲ検査スルトナリ

圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十條 裁判所ヨリ證人ト

シテ證據ヲ陳述スルトナキ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第百八十一條 傳染病流行ノ際

又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルトナキ命セラレタル者故ナクシ

○獸醫トハケダモノ、醫者ナリ

○偽造トハ其儘贋テ拵ヘタルモノヲ云フ

テ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタルハ一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十二條 内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス



○變造トハ其貨幣ヲ變  
シ造リタルモノニシ  
テ例ヘハ一圓チ二圓  
トスルノ類

若シ變造シテ行使シタル者ハ  
輕懲役ニ處ス  
第百八十三條 內國ニ於テ通用  
スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ  
行使シタル者ハ有期徒刑ニ處  
ス  
若シ變造シテ行使シタル者ハ  
二年以上五年以下ノ重禁錮ニ  
處ス  
第百八十四條 官許ヲ得テ發行  
スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若シ

○内外ノ區別トハ內國  
ナレハ第百八十二條  
外國ナレハ第百八十  
四條ノ區別ニ從フチ  
云フ

○行使トハ其價物ヲ遣  
ヒタルヲ云

ハ變造シテ行使シタル者ハ內  
外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例  
ニ照シテ處斷ス  
第百八十五條 內國通用ノ銅貨  
ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕  
懲役ニ處ス  
若シ變造シテ行使シタル者ハ  
一年以上三年以下ノ重禁錮ニ  
處ス  
第百八十六條 前數條ニ記載シ  
タル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ



○器械ヲ豫備スルトハ其道具ヲ備ヘタルヲ云フ

未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

○補助トハ手ダスケテナシ雜事ニ使役セラレタルモノヲ云

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知

○房屋トハ其家屋ヲ云給與トハ貸與ヘタルヲ云



二一一  
○取受シトハ人ヨリ贖  
物ヲ受取タルヲ云

テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シ  
タル者ハ偽造變造シテ行使シ  
タル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減  
ス  
其未タ行使セサル者ハ各三等  
ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シ  
タル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處ス  
ル者ハ六月以上二年以下ノ監  
視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造

三一一  
○本刑ヲ免シトハ其科  
スヘキ刑ヲ免シテ監  
視ニ付スルナリ

シ及ヒ輸入取受シタル者未タ  
行使セサル前ニ於テ官ニ自首  
シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以  
上三年以下ノ監視ニ付ス  
若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與  
シタル者未タ行使セサル前ニ  
於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免  
ス

第百九十三條 貨幣ヲ取受スル  
ノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナル  
ヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ



○其價額トハ其使ヒタル金額ノ二倍ト云ナリ

其價格二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ得ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

○御璽トハ天子ノ御印章ニシテ國璽トハ政府ノ印ヲ云

第一百九十四條 御璽國璽ヲ偽造

シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

○各官署ノ印トハ總テノ官衙ノ印ヲ云

第一百九十五條 各官署ノ印ヲ偽

造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

○官ノ記號トハ例ヘハ生糸蠶印紙等ヘ用ユルカ如キ記號ノ類等ノ如キヲ云フ

第一百九十六條 產物商品等ニ押

用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

○藏書印又ハ官ニテ認ムル所ヲ證スル爲用フル證印等ノ類ヲ云

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

○前ノハ皆偽印ニ係ル本條ハ盜ミテ押印シタルヲ云

第一百九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ



○煙草證券蠶種郵便等  
ノ諸印紙又證券訴訟  
用等ノ界紙ヲ云

○貼用トハ張り用ユル

刑ニ照シ各一等ヲ減ス  
若シ監守者自ラ犯シタルキハ  
偽造ノ刑ニ同シ

第百九十八條 官ヨリ發行スル  
各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手  
ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ  
之ヲ使用シタル者ハ一年以上  
五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓  
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス

第百九十九條 已ニ貼用シタル

トナ云

各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再  
ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二  
十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第百條 此節ニ記載シタル輕  
罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサ  
ル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ  
處斷ス  
第二百一條 此節ニ記載シタル  
罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者  
ハ六月以上二年以下ノ監視ニ  
付ス



○詔書ヲ増減變換トハ其詔勅ニ違ヒ文ヲ滅シ又ハ加ヘ又ハ意味ヲ變スル等ヲ云フ

○毀棄トハ毀キ棄ルナリ

第三節 官ノ文書ヲ偽造

スル罪

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ  
第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス  
其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

○其他官吏ノ公證シタル文書トハ例ヘハ地券證ノ類是ナリ

○無記名トハ人名ノ記シテナキヲ云

第二百四條 公債證書地券其他

官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造

シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル

キハ一等ヲ加フ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル

文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シ

テ行使シタル者ハ前二條ノ例

ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ



○官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造スルトハ例ヘハ一枚ノ辭令書ヲ偽造シタルモノ其官ノ印ナキハ偽造ノ效ナキヲ以テ其官ノ印モ又偽造シタル類

○他人ノ私印トハ則印

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造ス

ルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百七條 此節ニ記載シタル

罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造

スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造

形ヲ云フナリ

○印影ヲ盜用スルトハ人ノ印ヲ盜ミ押シテナシタルノ類ヲ云

シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書

ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換スヘキ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス



○贈遺トハ人ニ物件其  
 他何ニ寄ラズ贈與ス  
 ルヲ云例セハ生存  
 中ニ贈ルアリ又死シ  
 タレハ何々ヲ誰ニ與  
 フルト云證書ノ類ヲ  
 云

○私書ヲ増減スルトハ  
 十圓ノ證書ヘノチ加  
 へ千圓トスルカ如キ  
 又十圓ノ證書ヲ止チ  
 加へテ五圓トスルノ

其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲  
 シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換  
 其他權利義務ニ關スル證書ヲ  
 偽造シ又ハ増減變換シテ行使  
 シタル者ハ四月以上四年以下  
 ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十  
 圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減  
 變換シテ行使シタル者ハ一月  
 以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ

類ヲ云

二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ  
 附加ス

第二百十一條 此節ニ記載シタ  
 ル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂  
 ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照  
 シテ處斷ス

第二百十二條 此節ニ記載シタ  
 ル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル  
 者ハ六月以上二年以下ノ監視  
 ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾



○官ノ免狀トハ總テ官  
ヨリ下渡ス所ノ免狀  
ヲ云

○盗用トハ盗ミ押シテ  
ナスヲ云

○詐稱トハ詐リ稱ヘテ

病證書ヲ偽造ス  
ル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑  
札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ  
一月以上一年以下ノ重禁錮ニ  
處シ四圓以上四十圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又  
ハ盗用シタルルキハ偽造官印ノ  
各本條ニ照シテ處斷ス  
第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ  
詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ

○免狀ヲ願出ル  
テ詐偽ノ所爲トハ詐  
テ免許ヲ願出免狀鑑  
札ヲ受タル者ヲ云フ

○官吏情ヲ知テトハ其  
詐リタルヲ知ルヲ  
云

○公務ヲ免カルヘキ爲  
メトハ證人トナル責  
アルキ是ヲ免レンカ  
爲メ醫師ノ容體書ヲ  
偽作スルノ類ヲ云フ

免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五  
日以上六月以下ノ重禁錮ニ處  
シ二圓以上二十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下  
付シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條 公務ヲ免カル可  
キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病  
ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル  
者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲  
メニスルヲ分タス一月以上一



○醫師囑託トハ醫師頼  
ミテ受ケテ爲スヲテ  
云

○疾病證書トハ則病狀  
ヲ證スル證書ニシテ  
容體書ヲ云フ

年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以  
上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證  
書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加  
フ  
第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ  
免カルヘキ爲メ疾病ノ證書ヲ  
僞造シテ行使シタル者及ヒ囑  
託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造  
リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ  
各一等ヲ加フ

○曲庇トハ惡事アルト  
知リテナガラ善良ノ人  
ナリト云フカ如キ是  
ナリ  
○掩蔽トハチ、ヒカク  
スヲ云

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾  
病ノ證書ヲ増減變換シテ行使  
シタル者ハ亦僞造ノ刑ニ同  
シ  
第六節 僞證ノ罪  
第二百十八條 刑事ニ關スル證  
人トシテ裁判所ニ呼出サレタ  
ル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事  
實ヲ掩蔽シテ僞證ヲ爲シタ  
ルキハ左ノ例ニ照シテ處斷  
ス



○曲庇スル爲メ偽證シタルトハ惡事ヲ爲シタルヲ知リナガラ善良ノ事ナリト隱シ偽テ證ヲ立ルヲ云

- 一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

チ

○正當ノ刑トハ法律ニ定ムル所ノ刑ヲ免カレタルヲ云

○陷害スヘキ爲メトハ害ニ陥ラシムル爲メニ偽證シタルヲ云

- 第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
- 第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲナシタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス
- 一 重罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



二 輕罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百廿一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證

〇反坐トハ其被告人ノ科セラレタル刑ヲ其偽證者ニ科スルヲ云

〇刑期限内トハ例ヘハ禁錮一年ヲ科セラレタルキハ其一年内ハ刑期限内ナリ

〇偽證ノ爲メ被告人死刑トナツタルキハ其偽證人ハ無期徒刑ニ

者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降ス事ヲ得ス

第二百廿二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反



處スルナリ

○死ニ陥ルヲテ目的トハ始メヨリ死刑ニ處セラルヘキ目的ヲ以テ偽證シタルハ死刑ニ反坐ス

○民事商事トハ民法上又ハ商法上ノ偽證ヲ云フ

坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス若シ被告人ヲ死ニ陥ル、ノ目的ヲ以テ偽證ヲナシタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百廿三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲナシタル者ハ一月以上一年以下ノ重

○通事トハ治罪法第五百六條第六條等ノ場合ヲ云フ

○賄賂トハ不正ノ贈物ヲ云

禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百廿四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百廿五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ



○度量衡トハ物サシ楯  
ハカリナニ云

○官ノ記號印章トハ極

第二百廿六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百廿七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ

印等ヲ云

○販賣トハ賣ルヲナニ云

偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百廿八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百廿九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



○詐欺取財トハ偽テ財ヲ取ルヲ云フ

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケ

テ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ

刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文

書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分

○屬籍ヲ詐稱スルトハ

平民ニシテ士族ト云フカ如シ又身分ヲ詐稱スルトハ非役ニシテ官吏ナリト云カ如シ又年齢ヲ詐稱スルトハ己レノ生レタル年月ヲ詐リ職業ヲ詐稱スルトハ己レノ業ヲ僞ルヲ云フナリ

氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐

稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ

内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者

ハ十五日以上二月以下ノ輕禁

錮ニ處シ二圓以上二十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

○官職位階ヲ詐稱スルトハ非役ノ者勅任ナリト詐稱シ又從五位ナリト僞ルノ類  
○僭用トハ竊カニ用フルヲ云



○公撰ノ投票トハ公ケ  
ニ入札シテ人ヲ撰ム  
ヲ云

第九節 公撰ノ投票ヲ偽

造スル罪

第二百三十三條 公撰ノ投票ヲ  
偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル  
者ハ一月以上一年以下ノ輕禁  
錮ニ處シ二圓以上二十圓以下  
ノ罰金ヲ附加ス

○不正ノ贈物ヲ以テ是  
ヲ頼ムモ又は是ヲ受ケ  
テ投票ヲナスモ共ニ  
罪セラル、ナリ

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投  
票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケ  
テ投票ヲ爲シタル者ハ二月以  
上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三

○投票ヲ検査スルトハ  
其數ヲ調ヘルヲ云

○調書トハ其取調書ヲ  
云

圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス

第二百三十五條 投票ヲ検査シ  
及ヒ其數ヲ計算スル者其投票  
ヲ偽造シ又ハ増減シタル者ハ  
六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ  
處シ四圓以上四十圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書ヲ造リ投  
票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ  
増減シ其他詐偽ノ所爲アル者



ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

〇吸喰トハ阿片烟ヲ吞ムヲ云

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造

〇販賣トハ賣ルヲナリ

シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

〇情ヲ知ルトハ其阿片烟ヲ知リ又阿片ノ器械ナルヲ知リタルヲ云

第二百三十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

〇引誘トハ人ニヌ、メルヲ云

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス  
人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ



○受寄トハ預リ有スル  
ヲ云

○汚穢トハケガレキタ  
ナキモノヲ云

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食

シタル者ハ二年以上三年以下  
ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸

食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シ  
タル者ハ一年以上一年以下ノ  
重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚

穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供

スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用

○水質トハ水ノ生質ヲ  
云

○腐敗トハクサレモノ  
ヲ云

フルヲ能ハサルニ至ラシメタ  
ル者ハ十一日以上一月以下ノ  
重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害

スヘキ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變  
シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一  
月以上一年以下ノ重禁錮ニ處  
シ三圓以上三十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯



○陸地ニ運搬トハ陸地  
ヲモチハコブヲチ云

シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シ  
タル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ  
照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則

ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ  
爲メ設ケタル規則ニ違背シテ  
入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物  
品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一  
月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處  
シ又ハ二十圓以上二百圓以下

○船長トハ船ニチサタ  
ルモノナリ

ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條

ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲチ  
知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ  
一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ

○流行トハハヤルト云  
○豫防規則トハ未ダ傳  
染セサル内ニ防ク方  
法ヲ記シタルモノチ  
云

際豫防規則ニ違背シテ流行地  
方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五  
日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處  
シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰  
金ニ處ス



○違背トハ規則ニタガヒソムケルチ云

○危害トハアヤウクシテ害ノ生シ安キチ云フ

第二百四十九條 獸類ノ傳染病

流行ノ際豫防規則ニ違背シテ  
獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十  
一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ  
處シ又ハ五圓以上五十圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康

ヲ害ス可キ物品  
製造ノ規則ニ關  
スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ

○創設トハ設ケ立ルナリ

○健康ヲ保護スルトハ例ヘハ臭氣ノ惡シキモノハ是ヲ漏レサル様ニ注意スヘキヲ等ナ云フ

危害ヲ生スヘキ物品ノ製造處

ヲ創設シタル者ハ二十圓以上  
二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製  
造所ヲ創設シタル者ハ十圓以  
上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前

條ニ記載シタル製造所ヲ創設  
スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ  
保護スル規則ニ違背シタル者  
ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減



○過失殺傷トハ全ク過  
チニテ人ヲ殺シ又ハ  
キツ、ケタルモノヲ  
云

○人ノ健康ヲ害スヘキ  
物品ヲ飲食物ニ混和  
シテ販賣スルトハ例  
ヘハ唐紅ヲ以テ菓子  
ヲ染ル類

ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ

犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シ

タル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ

照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ

飲食及ヒ藥劑ヲ

販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害

スヘキ物品ヲ飲食物ニ混和シ

テ販賣シタル者ハ三圓以上三

○毒藥トハ是ヲ用フレ  
ハ必ラス死スル程ノ  
モノ又劇藥トハ多量  
ニ用フレハ遂ニ死ス  
ヘキ程ノモノヲ云

十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シ

テ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ

十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處

ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ

犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致

シタル者ハ過失殺傷ノ各本條

ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス

罪



○醫業トハ醫者ヲナスナリ

○治療ノ方法ヲ誤ルトハ病者ヲ治スルノ方法ヲ誤リタルヲ云フ

○公然トハ他人ノ見ル前ニ於テナスヲニシテ甲乙二人ノ間ノミニテハ風俗ヲ害スルヲナシ何トナレハ看

第二百五十六條 官許ヲ得スシ

テ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 前條ノ犯人治

療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷

ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各

本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所

行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三

十圓以下ノ罰金ニ處ス

テ以テ害トナルナレハナリ

○猥褻トハミダリガハシキヲ云フ

○風俗ヲ害スル圖書トハ春畫ノ類ヲ云

○猥褻ノ物品トハ戲レニ房事ニ仕用スル物品ヲ云

○賭場トハバクチ場ナ

○博徒トハバクチウチナリ

○招結トハ大勢招キアツムルヲ云

第二百五十九條 風俗ヲ害スル

冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公

然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ

四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ

利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタ

ル者ハ三月以上一年以下ノ重

禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下



○博奕トハ財ヲカケテ  
勝敗ニ依テトリヤリ  
チスルヲ云

○房屋ヲ給與トハ自分  
ノ房屋ヲ貸シ博奕場  
トナスヲ云

○現場トハ其所ニアル  
物品ヲ云

○醜集シトハツノリ集

ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ

現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月  
以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ  
五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ  
附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與  
シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭  
スル者ハ此限ニ在ラス  
賭博ノ器具財物其現場ニアル  
者ハ之ヲ沒收ス

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ

ムルヲ云  
○富籤トハ富又ハ取扱  
ケ無盡ノ類ヲ云フ

○神祠佛堂トハ社ト寺  
ト云

富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ  
業ヲ興行シタル者ハ一月以上  
六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓  
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所

其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ  
所爲アル者ハ二圓以上二十圓  
以下ノ罰金ニ處ス若シ説教又  
ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓  
以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス



○死屍トハ人ノ死シタル體ヲ云

○墳墓トハ墓所ヲ云發掘トハ堀リアバクコ棺槨トハ其死體ヲ入レタル器ヲ云フ

第七章

死屍ヲ毀棄シ及ヒ

墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死

屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上

一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シ

テ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル

者ハ二月以上二年以下ノ重禁

錮ニ處シ三圓以上三十圓以下

○毀棄トハコボチスツルナリ

ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三

月以上三年以下ノ重禁錮ニ處

シ五圓以上五十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シ

タル罪ヲ犯サントシテ未タ遂

テサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照

シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業

ヲ妨害スル罪



○偽計トハ偽リノ計策  
ヲ云フ

○賣買ヲ妨害シタルト  
ハ例ヘハ其積出ス元  
方ヘ掛合一手ニ買ヒ  
シメ他ヘ賣ラシメサ  
ルノ類ヲ云

○糶賣トハセリウリノ

第二百六十七條 偽計又ハ威力

ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ  
缺クヘカラサル食用物ノ賣買  
ヲ妨害シタル者ハ一月以上六  
月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以  
上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
前項ニ記載シタル以外ノ物品  
ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等  
ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力

ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シ

ヲナシ

○偽計威力ヲ以テ妨害  
スルトハ一村一郡ノ  
雇人ヲ煽動シテ雇賃

タル者ハ十五日以上三月以下  
ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十  
圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力

ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル  
者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇

賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景  
況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ  
他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以  
テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以



ノ増額ヲ欲シ農事ノ  
差支ヲ生セシムル等  
ヲ云

○虚偽トハウソイツワ  
リノ無根ノ風説ナリ  
○流布トハ言ヒヒロム  
ルナリ  
○價直トハ其チダンナ

上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三  
圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ  
減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變ス  
ル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對  
シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シ  
タル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ  
流布シテ穀類其他衆人需用物  
品ノ價直ヲ昂低セシメタル者

リ昂低トハ價へノ上  
リ下リナリ

ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ  
處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害ス

ル罪

○管掌トハ己レノ管係  
スル所ノ職務ヲ云

第二百七十三條 官吏其管掌ニ  
係ル法律規則ヲ公布施行セズ  
又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨  
害シタル者ハ二月以上六月以  
下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五  
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



○騷擾トハサワガシキ  
チ云  
○兵權ヲ以テ鎮撫スル  
トハ兵力ヲ以テチサ  
ムルヲ云

○官吏規則ニ背キトハ  
行政ノ規則ヲ以テ官  
吏ノ私商ヲ禁セラレ  
タルヲニ背キタルヲ  
云

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ

及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏

地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮

撫スヘキキニ當リ其處分ヲ十

サ、ル者ハ三月以上三年以下

ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違

背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二

十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ

處ス

第二節 官吏人民ニ對ス

ル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權

ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキヲ

チ行ハシメ又ハ其爲スヘキ權

利ヲ妨害シタル者ハ十一日

以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

第二百七十七條 人ノ身體財產

ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ

○擅ニ威權ヲ用ヒ云々  
トハ非理ニ權力ヲ張  
リテ不正ノ事ヲ人ニ  
チサシムルヲ云



○檢事豫審判事警察官  
速ニ保護ノ處分ヲ爲  
サ、ルトハ其惡人ノ  
良民ヲ害セサル様保  
護スルニアリ或ハ起  
訴ヲナシ又ハ拘引ノ  
處分ニ及フ等總テ治  
罪法ニ其方法ヲ載ス  
ルナリ

○逮捕官吏トハ其兇行  
人ヲ捕フル任アル官  
吏ヲ云

○監禁トハ獄ニ拘束ス  
ルヲ云フ

檢事豫審判事警察官吏其報告  
ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲  
サ、ル者ハ十五日以上三月以  
下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二  
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百七十八條 逮捕官吏法律  
ニ定メタル程式規則ヲ遵守セ  
ズシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ  
人ヲ監禁シタル者ハ十五日以  
上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二  
圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附

○程式トハ總テ獄則ニ  
定ムル所ノ法式ヲ云  
フ

○飲食衣服ヲ屏去シト  
ハ非理ニ是等ノモノ  
ヲ與ヘサルヲ云フ又

加ス但監禁日數十日ヲ過ル毎  
ニ一等ヲ加フ  
第二百七十九條 司獄官吏程式  
規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監  
禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム  
ヘキノキニ至リ之ヲ放免セサ  
ル者ハ又前條ノ例ニ同シ  
第二百八十條 前二條ニ記載シ  
タル官吏又ハ護送者囚人ニ對  
シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻  
ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以



苛刻トハテヒドキ事  
ヲナスヲ云フ

○死傷ニ致シトハ是ニ  
原由シテ死シ又ハ傷  
ツキタルヲ云フ

○水火震災トハ出水火  
事地震ノ時ヲ云  
○監禁ヲ解クトハ獄ヨ  
リ出スヲ云

上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四  
圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス  
因テ四人ヲ死傷ニ致シタルハ  
ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一  
等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス  
第二百八十二條 水火震災ノ際  
官吏四人ノ監禁ヲ解クトチ怠  
リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆  
打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ  
加フ

○罪狀ヲ陳述セシムル  
爲メトハ白狀ヲナサ  
シムル爲メナリ

○凌虐トハ甚シキ責苦  
ヲナシ手ツヨク取扱  
フヲ云

第二百八十二條 裁判官檢察官  
及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪  
狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ  
加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ  
四月以上四年以下ノ重禁錮ニ  
處シ五圓以上五十圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス  
因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル  
ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ  
一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス  
第二百八十三條 裁判官檢察官



○受理セストハ受取ラサルヲ云  
○遷延シトハ延引スルヲ

故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セ  
ス又ハ遷延シテ審理セサル者  
ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮  
ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス其民事ノ訴ニ係  
ル者亦同シ

○囑託トハ依頼ヲ受ク  
ルヲ  
○賄賂トハ不正ニ物ヲ  
賞フヲ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託  
ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ  
聽許シタル者ハ一月以上一年  
以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上  
四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○收受トハ受ケテサム  
ルヲ云  
○聽許トハ其事ヲ聽キ  
テ許スヲ

○不正ノ裁判トハ法律  
ニ背キタル裁判ヲ知  
リツヽナシタルヲ

因テ不正ノ處分ヲナシタル者  
ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ  
裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又  
ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以  
上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五  
圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル者  
ハ一等ヲ加フ  
第二百八十六條 裁判官檢事警



○曲庇トハ善チ惡トシ  
惡チ善ナリト取コシ  
ラヘテ庇フヲ云

○陷害トハ害ニナトシ  
入ル、ヲ

察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄  
賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタ  
ル者ハ二月以上二年以下ノ重  
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ  
三月以上三年以下ノ重禁錮ニ  
處シ十圓以上百圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス  
其被告人ヲ陷害シタル者ハ二  
年以上五年以下ノ重禁錮ニ處

○枉斷トハ枉ケテ處分  
スルヲ

○怨ミチ挾サミトハ怨  
ミアルニヨリ善チ惡  
トシトリコシラヘテ  
害ニナトシ入レタル  
ヲ云

シ二十圓以上二百圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス若シ枉斷シタル處  
ノ刑此刑ヨリ重キハ第二百  
二十一條第二百二十二條ノ例  
ニ照シテ反坐ス  
第二百八十七條、裁判官檢事警  
察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト  
雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨チ挾サ  
ミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者  
ハ亦前條ノ例ニ同シ  
第二百八十八條 前數條ニ記載



○追徴トハ取アグルヲ  
ナ云

シタル賄賂已ニ收受シタル者  
ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ  
其價ヲ追徴ス

第三節 官吏財産ニ對ス  
ル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守

○竊取トハヒソカニ盜  
ミ取ヲナ云

スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタ  
ル者ハ輕懲役ニ處ス  
因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換  
シ又ハ毀棄シタルキハ第二百  
五條ノ例ニ照シテ處斷ス

○簿冊トハ帳面類ヲ云  
フ

○入額トハ税ノ金額ノ  
高何レヨリ何程々々  
ト云金高ヲ云フ

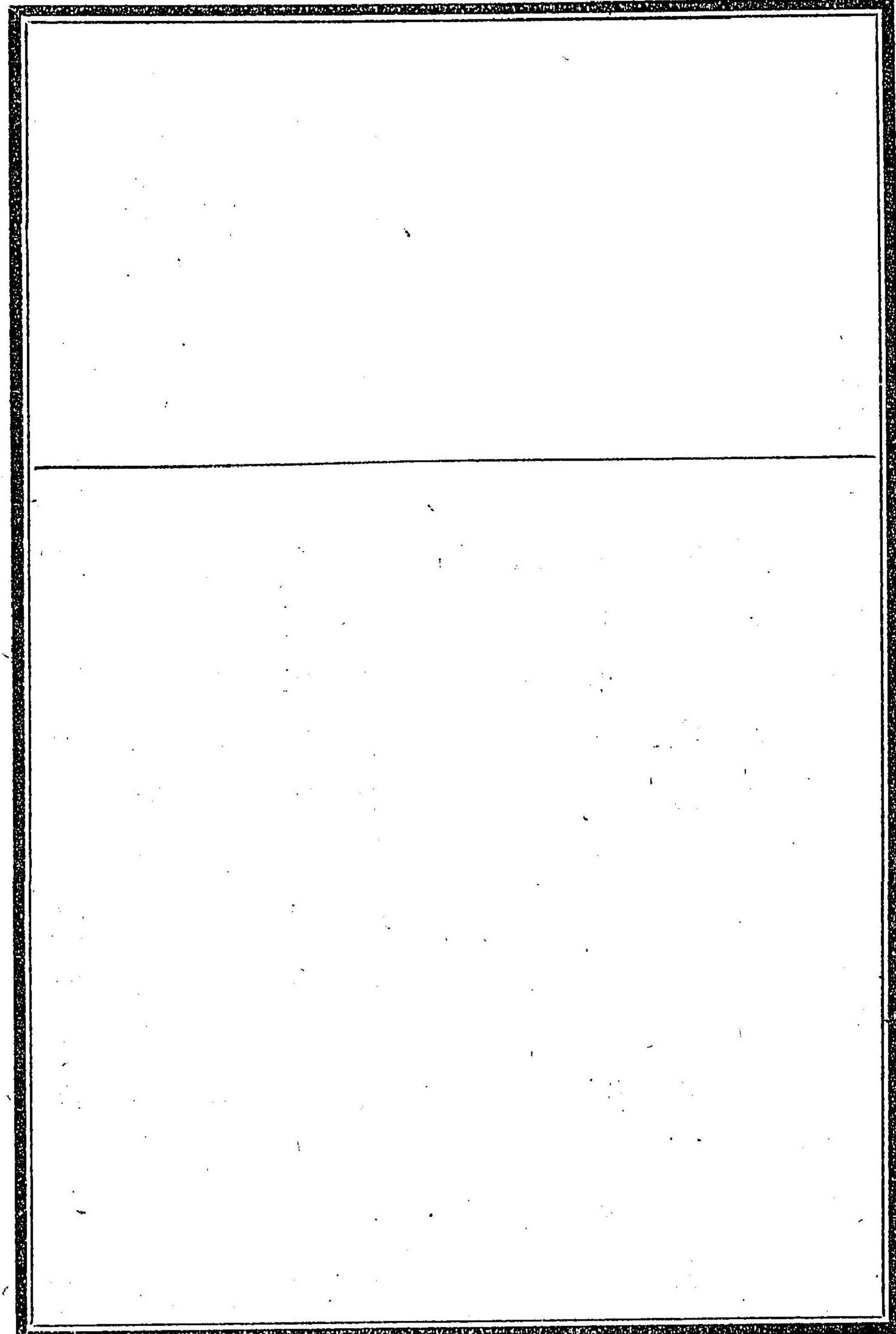
第二百九十條 租税其他諸般ノ

入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ  
金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以  
上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五  
圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シ

タル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處ス  
ル者ハ六月以上二年以下ノ監  
視ニ付ス





○前々ヨリ工風シタル

○毒物トハ總テノ毒藥  
ナ云

○豫メ謀テトハ豫テ前  
ヨリ殺サント工風シ  
テ殺シタルヲナ云

第三編 身體財産ニ對スル重

罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ

殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ

死刑ニ處ス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シ

テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以

テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人



ニ非ラス風斗殺スベ  
シト云氣ニナリテ殺  
シタルヲ云

○支解折割トハ手足ヲ  
切り割キ體ヲ折リ其  
外視ルニ忍ヒザル様  
ノ殺シ方ヲナシタル  
ヲ云フ

○罪ヲ犯スニ便利ナル  
爲メトハ金庫ノ金ヲ  
盜マンタメ先番人ヲ  
殺シタル類

○詐稱誘導シテ殺スト

ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲  
シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他  
慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シ  
タル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯  
スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯  
シテ其罪ヲ免カル、タメ人ヲ  
故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意  
ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷

ハ水ノ深キヲ知リナ  
ガラ淺キト詐テ溺死  
セシメタル類

○誤テ他人ヲ殺ストハ  
甲者ヲ殺ス積リニテ  
乙者ヲ殺シタル類

○毆打創傷トハウチダ  
、キテキズヲナハセ  
シヲ云

○兩目ヲ瞎シトハ盲目

レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以  
テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ  
以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行  
ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍  
ホ謀故殺ヲ以テ論ス

第二百九十九條 毆打創傷ノ罪  
シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲  
役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩



トナスコ  
 ○兩耳ヲ聾シトハ耳ヲ  
 以テ聞クコトヲ得ザラ  
 シムルヲ云  
 ○陰陽ヲ毀敗シトハ其  
 陰具ヲ毀ツコト  
 ○知覺精神ヲ失ハシム  
 ルトハ人事ノ辨ヘチ  
 失ハシムルヲ云

○殘虧スルトハ五體ヲ  
 不具トナスヲ云

目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢  
 ナ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀  
 敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セ  
 シメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲  
 役ニ處ス  
 其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ  
 一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ  
 廢疾ニ致シタル者ハ二年以上  
 五年以下ノ重禁錮ニ處ス  
 第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二  
 十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又

ル

ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至  
 ラシメタル者ハ一年以上三年  
 以下ノ重禁錮ニ處ス  
 其疾病休業ノ時間二十日ニ至  
 ラサル者ハ一月以上一年以下  
 ノ重禁錮ニ處ス  
 疾病休業ニ至ラスト雖モ身體  
 ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日  
 以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス  
 第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打  
 創傷シ休業廢篤疾又ハ死ニ致



○罪ヲ犯スニ便利ナル  
爲メトハ人ヲウチタ  
、キテ人ノ物ヲ奪ヒ  
去リ又罪ヲ免カレ、  
爲メトハ物ヲ盜ミ見  
答メラレタルニ依リ  
其人ヲ打タ、キテ逃  
タル類ヲ云

シタル者ハ前數條ニ記載シタ  
ル刑ニ照シ各一等ヲ加フ  
第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ  
便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ  
其罪ヲ免カレ、爲メ人ヲ毆打  
創傷シタル者ハ又前條ノ例ニ  
同シ  
第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他  
人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打  
創傷ノ本刑ヲ科ス  
第三百五條 二人以上共ニ人ヲ

○共毆トハ共ニ打タ、  
キタルヲ

○幫助トハスケダチナ  
ナス等ヲ云フ

毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ  
下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各  
自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ  
傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヲ能ハ  
サルキハ其重傷ノ刑ニ照シ一  
等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限  
ニアラス  
第三百六條 二人以上共ニ人ヲ  
毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セ  
スト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシ  
メタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル



○健康ヲ害スヘキトハ  
人ノ體ニ害トナルヘ  
キ物ヲ施シテ人ヲク  
ルシメタルヲ云

者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條 健康ヲ害スヘキ物

品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメ  
タル者ハ豫メ謀テ殴打創傷ス  
ルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非

スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ  
陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル  
者ハ殴打創傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關スル宥

恕及ヒ不論罪

○詐稱誘導トハ偽テ教  
ヘタルヲ云

○宥恕トハユルスヲ云

○其手ヲ下スノ前後ヲ  
知ル能ハサルトハ甲  
乙何レヨリ先ニ手ヲ  
下シタルヤ知レサル  
キヲ云

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行

ヲ受ルニ因リ直チニ怒ヲ發シ  
暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪  
ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ  
自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限  
ニアラス

第三百十條 殴打シテ互ニ創傷

シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルコ  
能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕ス  
ルヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通



○姦所トハ其姦夫姦婦  
通姦シタル場所ヲ云

ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦  
夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ  
其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通  
ヲ縱容シタル者ハ此限ニアラ  
ス

第三百十二條 晝間故ナク人ノ

住居シタル邸宅ニ入り若クハ  
門戸牆壁ヲ踰越損壞セントス  
ル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷  
シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シ

○牆壁ヲ踰越損壞トハ  
其周圍ノ塀垣等ヲ越  
シ又ハ毀テ等ヲナス  
ヲ云

○防衛トハ己レノ生命  
身體ヲフセクヲ云

○其罪ヲ論セストハ罪  
トナシテ論セサルヲ  
云

タル宥恕スヘキ罪ハ各本刑ニ  
照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當

ニ防衛シ己ムヲ得サルニ出  
テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自  
己ノ爲メニシ他人ノ爲メニス  
ルヲ分タス其罪ヲ論セス但不  
正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招  
キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ

己ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺



○防止トハフセキト、ムルヲ云

傷シタル者ハ其罪ヲ論セス  
 一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時  
 二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時  
 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條 身體財産ヲ防衛

○危害已ニ去リトハアヤウキヲガナクナリタルノナト云フナリ  
 ○勢ニ乘シトハ其イキヲヒニノリテナシタルヲ云

○疎忽怠リ又ハ總テノ規則又ハナラワシテ守ラスシテ人ヲ死ニ

スルニ出ルト雖モ已ムヲ得サルニ非スシテ害テ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ



至ラシメタル者ハ罰金ニ處スルナリ

○過失トハ過リニ依ルト云フ

人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因リ人ヲ

創傷シ癱篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ

創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

○教唆トハ汝ハ人ニ辱カシメラレタルヲ以テ人ノ嗤笑スル所ナリ

○囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下ストハ例ヘハ腹ヲ切テ死ニ至ラサルモノヲシテ早ク死ニ着カシムルカ爲メ手傳ヒチナシタル類

○自己ノ利ヲ圖リトハ自己ニ利チ圖ラシムルメニハカリタルヲ云

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自

殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百廿一條 自己ノ利ヲ圖リ

人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監